

学会だより

日本天文学会 1988 年秋季年会記事

1988 年秋季年会は 10 月 11 日 (火)~13 日 (木) の 3 日間、金沢市の石川県教育会館で A・B 2 会場を併用して開催された。

口頭発表による講演数は、A 会場が 120, B 会場は 124 で、出席者は約 400 名であった。なお座長は次の方々にお願いした。

	A 会場	B 会場
11 日	午前 田中靖郎	佐藤勝彦
	松岡勝	池内了
	午後 尾崎洋二	古在由秀
	岡本功	横山紘一
12 日	午前 辻隆	海部宣男
	小暮智一	福井康雄
	午後 甲斐敬造	奥田治之
	平山淳	松本敏雄
13 日	午前 石黒正人	岡村定矩
	午後 赤羽賢司	小平桂一
	石田蕙一	祖父江義明

ポスターによる発表数は 14 で、13 日午前 11 時 30 分から約 30 分間ディスカッションの時間帯を設け、討論が交わされた。Post dead-line papers の申込は、今回はなかった。

会期第 1 日目の講演終了後、Dr. H. U. Keller 氏 (西独、マックスプランク研究所上級研究員) の特別講演「ジオット探査機の多色カメラによるハレー彗星の核の研究」があり、会場には年会参加者 140 名が詰めかけ、熱心に聴講した。核に最接近したジオットのビデオ画像は誠に見事であった。

また年会開催前日の 10 月 10 日の午後 6 時 30 分から約 2 時間に亘って“公開講演会「パーシバル・ローエルと能登」”が開催された。向井苑生氏の司会で、ローエルにまつわる興味深いエピソードを折り込んだ次の 2 講演があり、約 200 名の聴衆を楽しませた。

『ローエルと日本』 宮崎正明氏 (金沢工大助教授)

『天文学者ローエル』古在由秀氏 (国立天文台長)

さらに、この公開講演会終了後、会場屋上で「金沢星の会」による“火星を観る会”が催され、数 10 人の市民が参加した。

会期中、11 日昼には臨時評議員会、12 日昼には内地留学奨学金選考委員会、12 日午後講演終了後、午後 4 時 30 分からは定款改訂を議題とする臨時総会、そして 13

日昼には理事会が開かれた。

懇親会は 12 日夜 6 時から、金沢ニューグランドホテルで開催され、約 230 名の参加で盛会であった。

また会期中に 6 つの懇談会・研究集会在計画され、スケジュールに追われた関係者も多かった。

賛助会員のための展示コーナーは、会場手狭のため今回は募集を取り止めた。

◎記者会見

10 日の公開講演会に先立ち、午後 3 時 30 分から記者会見を行い、公開講演会・特別講演会のアナウンスのほか、年会一般講演の中から選ばれた 3 つの研究について発表者が解説した。その内容は年会期間中に、新聞 4 社 (朝日、読売、北陸、中日) とテレビ 3 社 (NHK、北陸放送、石川 TV) が取材し報道された。次回以降も年会の折に報道機関へ情報提供を行ってゆくことにしたい。

◎臨時総会

10 月 12 日午後 4 時 30 分~約 1 時間

議長: 理事長 高窪啓祐

議題: 定款改訂について (所在地名称変更, 監事新設の件)

家庶務理事から主旨説明があり、質疑応答の後出席者全員 (110 名) の賛成が得られ、原案通りの改訂案が承認された。

計 報

本会元副理事長の古畑正秋氏には、かねて病氣療養中のところ、11 月 23 日午前 6 時 52 分急性心不全のため御殿場市・富士岡記念病院で逝去されました。享年 76 歳。

謹んで御冥福をお祈りするとともに会員諸氏にお知らせ致します。